

2021年3月29日配信

報道関係者各位

宗像サニックスブルース 今季トップリーグ初勝利！ ラグビートップリーグ試合情報（3 / 28 Honda 戦 結果）

株式会社サニックス（本社：福岡県福岡市、代表取締役社長 宗政寛）が有するラグビーチーム「宗像サニックスブルース」が、3月28日（日）、ジャパンラグビートップリーグ2021 第5節 Honda HEAT 戦で、今季初勝利を収めました。試合結果、チーム広報コラムを、下記の通りお知らせします。

宗像サニックスブルース vs Honda HEAT 25:24(前半 3:10)

チーム広報コラム（320）

「桜吹雪と今季トップリーグ初勝利」

せっかく満開に咲いた桜の花が、春の嵐で、早々に桜吹雪と化した3月28日の名古屋で、ブルースは、Hondaを相手に25対24という僅差の逆転勝利。待ちに待った、今季トップリーグ初勝利を飾りました。これまで今季5試合のすべてに先発出場している、弱冠21歳の藤井達哉選手（SH）が試合後、涙を流していたので本人に聞いてみると、「やっと上手くいったって感じです。負けが続いて、メンタル的にしんどかったので、笛が鳴ったとき、涙が出ていました。ホッとしました。でも、また、切り替えて、来週のNコム戦に向けて良い準備をしたいです」と話しました。雨風が強くて、バックスがボールを速く動かし、広く展開させることが難しいなか、それを補うかたちで、フォワードが2モールトライ。これは、少し前までは考えられなかった光景で、ブルースが苦労しながら獲得してきた変化の一つ。今季、近鉄から移籍してきた長身の寺田桂太選手（LO）は、「雨のなかの試合でしたが、ラインアウト、スクラム両方でプレッシャーをかけていくことができました。2つのモールトライも、フォワードで毎日積み上げてきたものを試合で出せた結果。これからも、さらに積み上げていきたい」と試合を振り返りました。その変化と、どんな状況のなかでも、一つの勝ち負けに涙を流すほど拘っていくという、ブルース本来の文化が融合して、これから、新たなスタイルを築き上げていければと願います。昔から日本では、桜吹雪は「厄落とし」として語り継がれてきたもの。残り2試合、厄を落とされたブルースが、その真価を見せる時です。ブルース、次の試合は、4月3日、高知県で、NTTコミュニケーションズと戦います。 チーム広報 野口 真弓

田代宙士（MAN OF THE MATCH）コメント

「試合は、ゲームプラン通りにできました。ボールが滑るなか難しかったのですが、チームメイト全員が良いボールを出してくれたのでいいキックが蹴れたと思います。そして、相手陣でプレッシャーをかけつづけたことが勝利の要因だと思います。チームメイトに感謝しています。また次の試合も良い準備をして勝ちにいきます。応援よろしくをお願いします」

試合経過、その他のコメントは、以下をご覧ください。

<https://rugby.sanix.jp/kite/08c91ba3aa19f66dd51c33fd53a409d5.html>



本件に対するお問い合わせ先 株式会社サニックス秘書室 田中・山下
TEL (092) 436-8882
宗像サニックスブルースファンクラブ
事務局 E-mail: rugby-fc@sanix.jp
※4月1日～4日は当社休日期間のため、上記メールにてご連絡をお願いします。